

研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-677
研究課題名 尿路上皮癌における新規癌関連遺伝子の同定 (BC-002)
研究期間 西暦 2014年 3月 (倫理委員会承認後) ~ 2018年 6月
対象試料 ■病理試料 (対象臓器名 尿路上皮癌) □生検試料 (対象臓器名) ■血液試料 □遊離細胞 □その他 ()
上記試料の採取期間 西暦 2014年 3月 ~ 2015年 6月
意義、目的 悪性腫瘍は癌関連遺伝子の変異や発現異常による遺伝子病であることが分かってきた。この為、悪性腫瘍における癌関連遺伝子の変異解析に関する研究が従来より実施され、癌原因遺伝子による症例の層別化が可能になり、症例に応じた適切な治療を提供できるようになりつつある。 尿路上皮癌は腎盂尿管膀胱の上皮より発生する悪性腫瘍であり、主に筋層非浸潤性癌、局所進行性筋層浸潤性癌、転移性癌に分類される。尿路上皮癌に関連する癌関連遺伝子としては Ras や Rb、p53 等が同定されていたが、それらを代表とする癌関連遺伝子の点変異と癌発生機序との関連性がますます注目されている状況にある。しかしながら尿路上皮癌において、それら既知の癌関連遺伝子変異に依存していない機序不明の症例も一定の割合で存在することが判明しており、そのような症例から新しい癌関連遺伝子変異の発見に繋がる可能性がある。今回 50 癌関連遺伝子の変異有無が判明している症例において、変異の有無別に生じている癌関連遺伝子の新規変異を同定することは、発がん機序の病態解明及び、新規標的治療の開発につながると思われる。
方法 (他の研究機関に試料・情報を提供する場合は、その旨も記載してください) 別途申請・実施される研究計画 (BC-001) において取得された試料および本研究で新たに取得する血液を用いて、尿路上皮癌の新規遺伝子変異を解析する。 方法としては全エクソンシーケンス、網羅的染色体変化解析、網羅的遺伝子変異解析を実施する。その中で新規の変異が発見された場合にはさらなる解析のため、タンパク質の発現解析等を探索的に実施する。 これらの試験は全て筑波大学あるいは京都大学で実施するため、試料は両施設に提供される。データ解析、統計解析は筑波大学で実施するため、同大学へ連結匿名化された情報が提供される。
問い合わせ等の窓口 東北大学病院 泌尿器科 〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町 1-1 電話番号：022-717-7000 (泌尿器科、平日 8:30~17:15) 022-717-7024 (時間外、休診日) ※担当医師または泌尿器科の医師を呼び出して下さい。